

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.649 = 野間読書推進賞特集 =



受賞者とその推薦者・関係者と、野間省伸会長、選考委員のみなさん



2021年(令和3年)

野間読書推進賞受賞者表彰(第51回)

☆受賞者

団体の部

・木刈親子読書会

(千葉県)

・石垣市文庫連絡協議会

(沖縄県)

個人の部

・吉井 久子さん

(佐賀県)

・鳥羽 啓子さん

(鹿児島県)

奨励賞

・草津点字グループあゆみ会

(滋賀県)

☆賞

賞状および賞牌

☆副賞

金三十万円(団体の部)

金二十万円(個人の部)

金五万円(奨励賞)

野間読書推進賞は、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を、全国から寄せられる推薦のなかから選び、顕彰するもので、毎年、「読書週間」の期間中に贈呈式が行われています。

本年の贈呈式は、11月5日(金)午前11時から、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて、受賞団体の代表者および受賞者5名と推薦者など受賞者関係者、読書運動関係者の出席のもとに開催されました。

野間省伸・公益社団法人 読書推進運動協議会会長の挨拶。つぎに、選考委員会を代表し、秋本敏さんが選考経過報告を行い、野間会長より受賞者へ賞が贈呈されました。続いて、文部科学省総合教育政策局 社会教育振興総括官 根本幸枝さんの祝辞が代読されたあと、各受賞者が挨拶に立ちました。

本年も昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して、贈呈式のための開催となりました。検温とマスクの着用、手指の消毒などへの、出席者みなさまのご協力とご理解に感謝申し上げます。

受賞者業績

《団体の部》

木刈親子読書会

住所 千葉県印西市
代表 長尾さおり さん

木刈親子読書会は、千葉ニュータウンの誕生とともに、図書館も地縁もない地域で、ゼロから始めた親子読書会です。

1984年(昭和59年)に開校した印西町立(当時)木刈小学校で開かれた親子読書会が好評だったことから、「継続した親子読書会を」の声が高まりました。しかし、町に図書館がなかったため、読書会用図書の確保、会場の設定などに苦慮し、千葉県立中央図書館、印西町教育委員会・公民館との折衝を重ね、継続開催の態勢を整えてこの年の11月に「木刈親子読書会」と名付けて発足しました。以来、わが子のため、地域の子と私たちのために、豊かな読書環境と文化を育み、子どもたちの健やかな成長を見守る活動を、行政と

連携して歩んできました。

読書会活動を通じて図書館の必要性を実感し、近隣の読み聞かせグループと「印西町の図書館を考える会」を発足、行政への働きかけを行い、1994年(平成6年)の町立天森図書館開館へとつながりました。現在は、図書館や地域交流館などで読書会を開くだけでなく、図書館などの主催イベントでの実演活動、協力しての講演会開催をし、地域住民への読書推進にも活躍しています。

おもな活動は、3歳以上の未就学児、小学校低学年・中学年・高学年、中学生以上の5つのクラスで、月1回の読書会Ⅱ例会を開いています。特に、小学生以下のクラスでは、月食観察や各種実験などを行い、子どもたちの新たな発見や驚きへつなげる「科学遊び」、戦争と平和を考える会を毎年実施。通常の例会で子どもたちは、1冊の本を通して、自然にさまざまな感想を交わし、自然に受け入れ、認めあっています。例会や科学遊びなどを支えるの

が、毎月開かれる定例会です。運営に関する話しあい・例会の報告をし、定例会に参加できない会員との情報共有として広報紙を発行しています。また、絵本の会「本の会」をそれぞれ年4回開催し、各会10〜20冊の本を回覧して、翌年度の本を選ぶ「選書会」につなげています。

近年は、地域向けのSNSに「科学遊び」の記事を投稿したり、ホームページ作成を視野にいれるなど、新たな層へのアピールを始めています。また、乳幼児・保護者に向けた読み聞かせのクラスを今年度より試験的に開始、親子読書の豊かさをより広げていきます。

【推薦者】

親子読書地域文庫全国連絡会
代表 原 良子



木刈親子読書会の
例会風景

《団体の部》

石垣市文庫連絡協議会

住所 沖縄県石垣市
会長 新城由利子 さん

石垣市文庫連絡協議会は1984年(昭和59年)、石垣市内各地域でそれぞれ活動していた9つの文庫が集まり、発足しました。地域の子どもたちがよい本に出会い、豊かな読書の世界とふれる機会を増やそうを目的として、精力的に活動してきました。

発足翌年の1985年(昭和60年)には、赤羽末吉さんを講師に招き、第1回児童文化講演会「自作を語る」を開催。その後も、28回の児童文学と子どもの本や文庫活動、読書に関する講演会を実施しています。1986年(昭和61年)からは、絵本の読み聞かせやおはなしを、親子で泊まりがけで楽しむ「文庫まつり」の開催も始まりました。講演会や絵本の展示、おすすめ絵本リストの配布もあり、毎回多数の親子が参加します。こちらもこれまで28回開催されており、第3回からは地元の昔話にこだわった「民話の里めぐり」を取り入れ、口承文芸の継承

にも取り組んでいます。また、野鳥観察会、自然観察会も実施し、自然体験も取り入れています。

石垣市文庫連絡協議会では、絵本の読み聞かせや製本教室を開き、市教育委員会へ移動図書館車運行の陳情をするなど、会員、文庫にくる子どもたちに限らず、広く市民を対象とした活動も展開してきました。

1989年(平成元年)には石垣市立図書館開館セレモニーへ協力参加し、以来市立図書館の週末読み聞かせボランティアを現在まで継続しています。また、2011年(平成23年)からは市立図書館主催のブックスタート事業にも協力しています。年平均6回行うおはなしの出前は、市内にとどまらず、近隣の竹富町・与那国町へも足を運び、保育園、幼稚園、小・中・高校で実施されています。

1994年(平成6年)には「文庫活動を通して子どもの健全育成を図る沖縄におけるアジア国際会議」に参加し、ローカルレポート「文庫活動と子ども」の発達を発表。2000年(平成12年)から2019年(令和元年)まで「八重山昔ばなしセミナー」を事務局として開講し、2003年(平成

15年)には「八重山の昔ばなし」第一集・第二集を「昔ばなしセミナリ」事務局として発行するなど、その活動の広がりには沖縄県内でも高く評価されています。

【推薦者】

沖縄出版協会
会長 大城佐和子

《個人の部》

吉井 久子 さん

住所 佐賀県神埼市

「みんなに読書の楽しみ、喜びを伝えたい」の意気込みで読書活動を推進してきた、吉井久子さん。

子育て、仕事で時間に追われてなかなか本にふれる時間がとれなかったそうです。しかし、孫に絵本を読むようになった1994年(平成6年)から、それまでを取り戻すかのように活発な読書活動を実践し、今日まで継続しています。

スタートとなったのは、1994年(平成6年)の「おはなし会ケムケム」への入会です。神埼市内の3つの小学校、神埼市内図書館での読み語りを継続しています。

2008年(平成20年)には「佐

賀県親と子の読書会協議会」の副代表を務めています。2020年(令和2年)には劇団を招致して『泥かぶら』の神埼市・佐賀市での公演を実現しました。

2009年(平成21年)からは、神埼市内の老健施設、保育園、子育て支援、市内図書館での読み語りを行うグループ「ゆめどん」の代表に。さらに2012年(平成24年)からは家庭での親子読書を推進する「家読姉」の代表も務めており、神埼市内、佐賀県内の読書グループの中心人物として広く活躍しています。

「家読姉」では、読み語りだけではなく、多読者の表彰なども行うことで、地区の中での本を通じて交流が生まれるきっかけを作っています。その中から、地区在住のベトナム人技能実習生との国際交流も始まり、近年では技能実習生を招待して「文化交流会」を開催、簡単なベトナム語教室や民族舞踊と歌を披露してもらい、「家読姉」からは日本の昔話紙芝居の実演と七夕飾り工作をするなどの成果につながっています。

「おはなし会ケムケム」「家読姉」では、おはなし会の様子やおすすめの本の紹介をたくさん写真とともに手書きで紹介する通信を吉

井さん自らが編集、発行して、会員および会員外へも情報を発信しています。

これらのグループも各方面よりさまざまな表彰を受けています。その中心となる吉井さんのリーダーシップ、実践の確かさも、大きく評価されており、これからも本と人の架け橋として大きく活躍されることが期待されています。

【推薦者】

神埼市立図書館
館長 松永武宏

《個人の部》

鳥羽 啓子 さん

住所 鹿児島県鹿児島市

鳥羽啓子さんの読書活動の原点は、短期大学在学時に師事した椋鳩十さんの教え「子どもが生まれたら、子どもに本を読んでくれたまえ、おはなしを聞かせてくれたまえ」にあります。1977年(昭和52年)の長男誕生を機に、実践が始まりました。

1981年(昭和56年)に現在の地に転居してからは、地域の子育てグループ「のびっこ」を仲間と立ちあげ、読み聞かせなどの学習会を開始。さらに、小学校の親

子読書会、子育てグループで地域文庫を立ちあげ、本格的かつ多彩な読書活動を展開しました。地域文庫「星ヶ峯地域文庫」は、鹿児島市に交渉して建設予定の福祉館に絵本棚を設置してもらい、市立図書館からの団体貸出を受け、週1回のおはなし会と図書の貸出を実施。この実践は高く評価され、その後市内で建設された福祉館には絵本棚が設置されるようになり、新たな地域文庫が鹿児島市内に次々と誕生しました。1995年(平成7年)からは、市内のホスピス内に「ひだまり文庫」を開き、患者とその家族、市民に開放してきました。ホスピスの改装に伴い、今年、「ひだまり文庫」は新興住宅地内のこども園・保育園に併設された絵本館として再出発しました。園の保護者と読書グループが、地域の施設、読書グループと連携する新しい形の地域文庫として、これから期待されています。

鳥羽さんの実践の特徴は、学びへの姿勢にあります。東京子ども図書館や全国各地の読書推進の講演会・学習会に積極的に参加し、多くの絵本作家、児童文学者、読書活動実践家と縁を結び、鹿児島での講演会・講座の開催へと結び

つけました。また、さらに読書活動に関する学びの場を求めて「かごしま文庫の会」に入会し、各種学習会の運営に参加。九州の語り部の集まり「昔話を楽しむ九州沖縄交流会」の世話人として30年間運営に携わり、他県の読書グループとの交流を深めてきました。

また、徹底したボランティア精神の追求も、鳥羽さんの特徴です。ボランティアとして参加する際には、交通費以外は受け取らないという信念で、幼稚園・保育園などのおはなし会の謝金はすべて絵本購入に充て、その絵本を園に寄付しています。東日本大震災被災地支援も続けています。

鳥羽さんは自分が学んできたこと、ボランティア活動の意義や意味の追求への意志を後進へつなげることに力を入れています。2000年(平成12年)に鳥羽さんを中心に結成された県立図書館読み聞かせグループ「ささなみ」は、県内各地のおはなし会にボランティアとして参加し、各地域での読書活動の核となっています。また、公共図書館・学校図書館職員、地域ボランティアを対象とした研修会でも、鳥羽さんは講師として活躍し、「鳥羽さんに学びたい」という思いで参加する人も多

く、その活動と精神は確実に次代へ引き継がれています。

【推薦者】

鹿児島県読書推進運動協議会

会長 古川伸二

【奨励賞】

草津点字グループ

あゆみ会

住所 滋賀県草津市

代表 山田 元茂 さん

草津点字グループあゆみ会は、

1980年(昭和55年)11月に発

足しました。「ひとりでも点訳物

が必要な方のために」を活動方針

に、活動がきわめて困難な時期も

ありましたが、会員がともに励ま

しあいながら、今日まで41年間

たゆむことなく点訳物を提供して

きました。現在の会員は10名と少

ないですが、まさに少数精鋭、さ

まざまな活動を展開しています。

中心となる点訳活動は、社会福

祉法人 草津市社会福祉協議会と

草津市立図書館の会議室で行つて

います。市広報紙『広報くさつ』

を年12回、市社協広報紙『社協く

さつ』を年4回点訳し、利用者へ

発送しています。そのほか、市立

図書館資料、選挙関係の書類、福

祉関係の書類など、趣味・市民生

活に欠かせない点訳物を提供して

きました。選挙時には、点字投票

の判読もするなど、視覚障がい者

の権利を支援しています。

あゆみ会では、点訳の啓発にも

取り組んでおり、草津市内の小学

校・中学校や、地域での点字体験

教室での指導・協力にも参加して

います。教室に参加した子どもた

ちが、視覚障がい者へ向けて自ら

点字の手紙を書いたこともあり、

点訳の意義と魅力を地域へ確実に

広げてきました。

地道にコツコツと続けてきた活

動は、会員同士の絆を強くしてき

ました。そして、点訳資料が市立

図書館の書架に配置され、点訳資

料を必要とする人が日常的に図書

館を利用することは、すべての図

書館利用者が点訳の必要性・重要

性を理解し、共感を深める地域の

絆へつながっています。公共図書

館における障がい者サービスのさ

らなる拡充が求められる現在、図

書館のすべての利用者の読書を支

えるあゆみ会の活動は、貴重で尊

敬されるべきものです。

【推薦者】

草津市立図書館

館長 武村 彰

★受賞決定までの経過

●2021年令和3年5月14日

全国都道府県教育委員会委員長

および教育長、都道府県中央図

書館および読書推進運動協議会

のほか、全国市町村教育委員会

連合会、日本PTA全国協議会、

日本新聞協会、日本放送協会、

日本民間放送連盟などに候補者

推薦を依頼しました。

●2021年令和3年7月31日

候補者推薦締切。推薦数は27団

体、2個人。

●2021年令和3年8月26日

感染症対策のため、選挙準備委

員会をオンライン形式にて開

催。委員より提出された各候

補者への評価・その理由を事

務局でまとめた資料をもとに

討議し、16団体2個人を選出。

これについてさらに実情調査

などの結果をまとめ、選挙委

員会に提出しました。

●2021年令和3年9月13日

選挙委員会をオンライン形式で

開催。慎重な審査の結果、2

団体2個人の野間読書推進賞、

1団体の野間読書推進奨励

賞受賞を決めました。

☆選挙委員

秋本 敏

公益社団法人 日本図書館協会

図書紹介事業委員会 委員長

黒木義博

公益社団法人 全国学校図書館

協議会 総務部部長代理 読書

活動振興プロジェクト担当

野上 暁

児童文学・文化評論家

一般社団法人 日本国際児童図書

評議会 副会長

(五十音順)



選考経過報告をする
秋本敏さん

★野間読書推進賞について

公益社団法人 読書推進運動協議

会は、出版界と読書界との協調をは

かり、広く国民各層に対し、読書の

普及を促進し、もつてわが国の文化

と社会の進展に寄与することを目的

として、1959年(昭和34年)に

創立。以来、「読書週間」をはじめ

多くの事業を行っております。

「野間読書推進賞」は、「読書週間」

の関連事業として1971年(昭和

46年)に創設したもので、地域・職

域などにおいて、永年にわたって読

書の普及に力を尽くし、読書推進運

動に貢献された団体・個人を顕彰し

てまいりました。

この賞は1969年(昭和44年)、

講談社社長・野間省一氏(当時・故

人)から、読書推進運動協議会が社

団法人となったことを機に、基本財

産として金1千万円、その後、講談

社創業70周年、80周年を記念して計

3千万円の寄付を受け、その基金を

中心に贈呈しています。

第1回から第14回までを「読書推

進賞」と称し、1985年(第15回)か

ら、故人の遺徳を偲んで「野間読書

推進賞」と改称しました。



野間読書推進賞賞牌

挨拶と祝辞



贈呈式 主催者挨拶

公益社団法人 読書推進運動協議会

会長 野間 省伸

本日「野間読書推進賞」を受賞されるみなさま、本当に、おめでとうございます。

ご選考にあたられた秋本敏さま、黒木義博さま、野上暁さまのお三方、本当にありがとうございます。

おかげさまで東京都の緊急事態宣言も解除され、本日無事に贈呈式を迎えることができました。昨年同様、人数を限定しての開催となりましたが、お忙しいなか、ご列席くださいましたみなさまに厚く御礼申し上げます。

「野間読書推進賞」は、長く読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献してこられたみなさまに對して贈られます。1971年に

始まり、今回、第51回を迎えました。本日は本賞2団体・2個人、奨励賞1団体を顕彰いたします。

本日受賞されるみなさまを含めて、受賞者は237の団体・個人の方々を数えます。

また先月10月27日に始まった第75回読書週間は、来週火曜日の11月9日まで続きます。今年の標語は「最後の頁を閉じた 違う私がいいた」です。今年のポスターは、澄んだ青空が印象的で、特に若い方に人気が高いようです。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、読書推進運動も大きな制約を受けてしまいました。しかしながら、その後、知見を積み、工夫を凝らすことによつて、各地で活動が力強く再開され



開式の挨拶をする
野間会長

てきております。

読書推進運動協議会が主催する、春の「こどもの読書週間」におきましても、2020年は行事主催者数が820件まで減少しましたが、2021年は1700件と、ほぼ例年並みに回復いたしました。関係者のみなさまのご努力、ご協力にあたためて感謝申し上げます。

コロナ禍の終息はまだまだ見通せませんが、受賞者をはじめ読書推進運動にたずさわるみなさまが、これからも健康で安全に活動が続けられますよう、祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

祝 辞

文部科学省 総合教育政策局
社会教育振興総括官

根本 幸枝

本日「野間読書推進賞」を受賞されたみなさま、まことにめでとつございます。

受賞されたみなさまは、長年、各地域などにおいて読書活動の推進に精力的に取り組まれ、地域における読書活動の普及に大きく貢献してこられました。本日の受賞について、心からお祝いを申しあ

げるとともに、熱意ある取組に對し深く敬意を表します。

本年は「子どもの読書活動の推進に関する法律」施行20周年です。法第二条にも規定されているとおり、読書は、子どもが、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものであり、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にその環境整備を推進することが求められています。

ます。

このため、文部科学省では、コロナ禍が長期化する中、各地で創意工夫して行われているオンラインを活用したビブリオバトルや読み聞かせ会などを奨励するとともに、昨年開設した「子供の読書キャンペーン」もつとひろがれ！本の森」に、児童生徒や保護者への文部科学大臣メッセージや、著名人のお勧め本の追加など内容の充実を図りました。

また、令和4年度概算要求では、新たに「読書活動総合推進事業」を要求し、図書館や学校、民間団体など幅広い関係者・機関等が連携して、読書活動を総合的に

推進することとしております。加えて、来年度策定予定の次期「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」の準備を進めており、この計画を基に、子どもの読書活動をいっそう推進するよう努めていくこととしています。

読書推進運動に携わっているみなさまにおかれは、子どもたちの豊かな読書環境の実現のため、これまでの知見や経験、そして専門性を生かし、引き続き読書活動の推進にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年で第51回を迎えられました「野間読書推進賞」をはじめとする読書活動の推進に、長年にわたり取り組まれている公益社団法人読書推進運動協議会および関係者のみなさまに心から敬意を表するとともに、ご参集のみなさまのますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、私のお祝いのことばといたします。



野間読書推進賞を受けて



子どもたちとともに
歩み続けて37年

木刈親子読書会

顧問 中村 隆子(千葉県)

このたびは荣誉ある野間読書推進賞を受賞でき、たいへんうれしく思っています。ありがとうございます。

受賞の知らせを受けたとき、私たちは子どもたちと読書会の最中で、会員一同歓喜して躍りあがりました。それ以来、愉快で満足なすがすがしい日々を送っています。

木刈親子読書会は、千葉ニュータウンの街開きとともに、図書館も、地縁もない地で始めた親子読書会です。けして順風満帆な歩みが続けてきた訳ではありません。当初の大きな問題は、図書館が

ない地で本を媒介とする活動の厳しさ、特に子どもたち各自にどう本を手配するか、活動場所はどこにするかと、山積みの課題を抱えての見切り発車でした。それはひとえにわが子のため、地域の子どものために豊かな読書環境を整え、健やかな成長を切望するあまりでした。

県立中央図書館に働きかけた結果、印西町立中央公民館図書室が相互貸借サービスのステーションを引き受けてなんとか始まりましたが、予期せぬことが多々ありました。想像を絶することですが、図書館を利用することがない町職員に、わが子の子育てに使用する本を自分で用意できないとは、といったような辛辣な批評、意見を浴びたこともありましたが、いまでは、苦い思い出です。

いままで活動を続けていくうえで大切にしてきたことは、こよなく子どもを愛し、子どもの人格を尊重し、ありのままの子どもを受け入れ、その一人ひとりが自信を持ち、考え、行動することです。

幸い、読書会には縦割りや横割

り両方の接点から人びとが繋がり、人と人との支えあい思考の幅を広げられる環境にあります。近ごろよく話題になる多様性についても柔軟で素晴らしい意見がでてきます。近年、親子で集まり活動を進めていくことがコロナ禍でもありたいへん困難になり、新人会員がありません。ひとりでも読書会の趣旨を理解して入会する人を発掘することが、当面の課題です。

間もなく木刈親子読書会は、40周年を迎えます。これからも子ども

もたちとともに読書を楽しみ、成長していきます。
どうか今後ともよろしく願います。



「下」毎年行われる読書会「戦争と平和を考える会。今年は丸木俊・位里さんの『おきなわ島のこえ』を読みあいました」
「石自然観察 野外でのおはな会など、地域の環境を活かした、のびのびとした活動も、木刈親子読書会の特徴です」

第51回 野間読書推進賞贈呈式



⇒木刈親子読書会のみなさんで記念写真！

⇒賞状・賞牌を受け取ったのは代表の長尾さおりさん



野間読書推進賞を受けて



子どもたちの豊かな心と
想像力を育むために

石垣市文庫連絡協議会

会長 新城由利子(沖繩県)

2021年9月13日、手元の電話が鳴り、読書推進協議会事務局長 小塚さんより、「選考委員会にて第51回野間読書推進賞受賞が決定されました、おめでとうございます」とのこと。その朗報を受けて感無量になり、推薦していただいた沖縄出版協会、選考委員会の先生方へ感謝の気持ちでいっぱいになり、これまでの活動を評価してくださったことに「ありがとうございます」と深々と頭を下げたものです。

絵本の出会いと文庫活動を振り返ってみます。
私の住む石垣市平得地域に

1975年6月、平得婦人会の若い母親の学習会の一環として、子育て情報、交流の場に「本と子ども」を結ぶ種子が蒔かれ、絵本のぬくもりを子ども心に灯し続けてまいりました。絵本の読み聞かせや地域行事にも参加してきました。そんな折、1984年11月12日に市内9つの文庫で石垣市文庫連絡協議会が結成されました。

文庫連では、潮平俊 前会長が東京都多摩市での「子ども文庫」での体験・経験を会員に広め、児童文学、絵本作家の先生方による児童文化講演会や文庫まつり、民話の里めぐりなどを開催してまいりました。私は沖縄県立図書館八重山分館長を勤めていたおかげで読書アドバイザーも取得し、仲間とともに図書館の行事にも協力できました。しかし、残念なことに分館は2012年3月閉館です。

石垣市文庫連絡協議会の37年のあゆみをつづてみます。
目的は子ども読書の関心を高め、読書を楽しむ豊かな感性が大人にも子どもにも育ち広がること。そのために ①講演会、学習

会文庫まつりを毎年開催 ②石垣市立図書館が開館した1990年以来、児童室での読み聞かせ ③保育園、幼稚園、小中学校での読み聞かせ ④地域情報月刊誌「やいま」に1990年以来「文庫連おすすめの一冊」掲載 ⑤昔ばなし大学(小澤俊夫主宰)を2000年から2019年まで開校、「八重山昔ばなし再話集」第一・二集発刊 ⑥市立図書館主催「ブックスタート」2011年より参加、と活動してきました。

2002年「優良読書グループ」、2004年「子どもの読書活動優秀実践団体」文部科学省、2021年「第51回野間読書推進賞」を受賞しています。
現在は、活動のあゆみの記念誌、「八重山昔ばなし再話集」第三集の発行を予定しています。
これからは野間読書推進賞の意義や目的をしっかりと会員一同心に留め、出会う子どもたちに、絵本の世界の豊かさ、楽しさ、美しさを創造する力をしっかりとつなげるよう、がんばっていきます。



「上」文庫まつりでは、イベントだけではなく、沖縄民話の絵本がずらりと並べられる
「五」文庫連のみなさん。「ばがなつ」は八重山のことばで「若夏」のこと



⇒文庫連の「員」「ひまわり文庫」の子どもたち



⇒挨拶で沖縄民謡「ていんさぐぬ花」を披露する新城さん

野間読書推進賞を受けて



出会いがつながり広がる
「本っていいなあ」

吉井久子（佐賀県）

受賞のお話を受けたときに「私
でいいのだろうか」という思いが
ありました。地域のみなさんと
の交流、一緒に取り組んできたこ
とを評価していただいたことに
ありがたく光栄なことだと深く感
謝しております。

現在、発足45年を迎える佐賀県
親と子の読書会協議会で副会長を
務めておりますが、26年前から千
代田お話し会「ケムケム」のメン
バーに加わり、その後「ゆめどん」
の代表として「零歳から百歳まで」
をモットーに、読み語りを続けて
きました。佐賀県まなび課の依頼
を受け、いろんな場所で活動のノ

ウハウや教材、小道具作りの指導
講座なども実施しています。児童
センター、保育園、小学校、高齢
者施設、図書館、書店などで活動
しながら、たくさんのお本と人の
出会いがあり、「本っていいなあ」
といつも感じています。夫も退職
後に活動に加わって15年。いまで
はよき理解者です。

地元の神埼市では、子どもから
お年寄りまで家族と一緒にコミュ
ニケーションを図る「家読（うち
どく）」事業に11年前から取り組
んでいます。私が住んでいる千代
田姉妹地区にも読書の輪を広げた
いと、みんなが歩いて行ける集落
センターを拠点として、市が「家
読」を始めた翌年スタート。市立
図書館、県立図書館からの貸与に
わが家の本も加え、毎月2回の貸
出を行っています。毎月発行する
手作りの「うちどく姉妹だより」で
は地区内のトピックなども紹介。
また、年間多読賞表彰や夏休み、
クリスマスのおはなし会などを開
催しています。

月1回は近くの市営住宅集会所
にも本を持参。利用者の多くは高

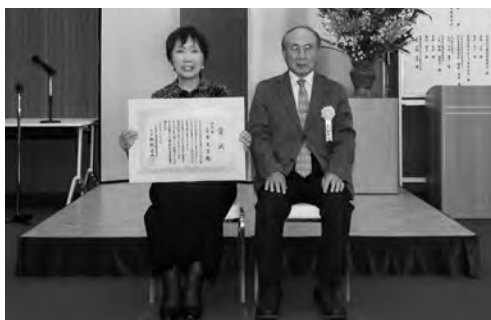
齢者で「読書が楽しくなった」と喜
ばれ、私もうれしくなります。当
日、おはなし会も開いています。絵
本と紙芝居の読み語りをし、参加
者と早口ことばなどで発声練習を
します。脳を活性化するため、ふた
つの絵の間違い探しやクロスワー
ドパズルにも挑戦、その後「いき
いき百歳体操」をスタートします。
日ごろ考えているのは、読書活
動をきっかけに地域の連帯感、助
けあいの心が育つことにつながれ
ばいいな、ということです。地区内
にはベトナムの技能実習生のシェ

アハウスがあり、住民ともなかよ
くしてほしいとの思いから七夕や
クリスマスの読み語りに交流会を開き、
ベトナムの舞踏や歌の披露、ベト
ナム語教室、しめ縄づくりなど、お
たがいの文化にふれあいました。
このところのコロナ禍で、行事の
中止を余儀なくされ残念です。
早く従来の日常生活が戻ること
を願いつつ、今回の受賞を励みと
して読書の輪をもっと広げ、たく
さんの人に本の楽しさ、すばらし
さを伝えたいという気持ちを持
續しています。



「上」みどり保育園での読み聞かせ講座。
保育士さんはみな、熱心に取り組んでく
れます。
「下」姉妹集落センターでのおはなし会は
さまざまな年齢の人が集まります。

⇒読み語り仲間のお連れあい・
英隆さんと一緒に



⇒アオザイ姿で踊る、ベトナムの
技能実習生たち



野間読書推進賞を受けて



点訳の大切さ、楽しさを
つぎの世代へ

草津点字グループあゆみ会

代表 山田元茂（滋賀県）

このたびは、奨励賞受賞の榮に
浴し、一同、たいへん喜んでいま
す。

現在会員は10名で、主に、図書
館の蔵書の点訳と、草津市の「広
報くさつ」の点訳と印刷・発送に
取り組んでいます。コロナ前は、
毎月、例会（情報交換と勉強会、
「広報くさつ」の打ちあわせ、図
書館点訳の打ちあわせと、計3回
の打ちあわせを行っていました
が、コロナ下の現在は、毎月2回
に減らして、感染対策に気をつけ
ながら活動しています。

図書館蔵書の点訳は、本年は、
『強文論』（阿川佐和子／文藝春秋）

と、『藤子・F・不二雄―「ドラ
えもん」はこうして生まれた』(ち
くま評伝シリーズ／筑摩書房)の
2冊に取組中です。ひとつの本
をゆつくりと吟味しながら読む機
会は、なかなかありませんので、
いろいろな意味で、いい勉強にな
ります。

「広報くさつ」は、毎月、月初に
発行されます。20日過ぎに原稿を
入手し、打ちあわせて内容を確認
し、分担を決めて点訳に取りかか
ります。点訳作業は、各自が自宅
で行い、メールのやり取りで、校
正や編集を行います。完成した点
訳冊子は、100ページを超える
こともあります。特に、広報は、
間違った情報をお伝えすることの
ないよう、綿密に打ちあわせや校
正を行っています。また、市社会
福祉協議会の広報が、年4回発行
され、これも点訳し、印刷、発送
を行っています。このふたつの広
報が重なる月は、たいへんな忙し
さになります。

このほかに、例年は、小中学校
からの依頼による点字教室を、年
に数回行っていました。現在は、

コロナのために中断しています。
子どもたちが、楽しそうに学んで
いる姿を、とてもうれしく見てい
ます。興味を持ってもらえて、将
来、点訳活動への参加につながる
と幸いだと思います。

現在、会員の多くが高齢者で
す。目が見えにくくなったり、集
中力がなくなってきたりしていま
すが、それでも、全員元気で、頑
張って作業に精を出しています。
今回の受賞は、われわれの先輩の
方々をはじめ、関わったすべての
人たちの、永年の努力を評価して

いただいたものと、感謝していま
す。これを糧にして、今後も、活
動を長く継続していきたいと思っ
ています。

点字文書は、視覚障がい者のみ
なさんにとつては、重要な情報源
です。なんとかうまく、世代交代
ができないものかと悩む日々で
す。今回の受賞が、会の拡大のひ
とつのきっかけになればと願って
います。



「上左」広報、雑誌の点訳を製本して、
視覚障がい者へ郵送
「上右」点訳はパソコンに力、打点機
より点字で出力されます
「下」学びあひながらの点訳作業

⇒控え室で野間会長と談笑する
山田さん



⇒図書館まわりの点訳しおり作りで
子どもたちの講師を務めています

野間読書推進賞 これまでの受賞者からの近況報告

第21回 1991年

団体 佐賀県親と子の読書会協議会(光岡澄子さん) 佐賀県

*「0歳から100歳まで読書を楽しまししょう」の合言葉で、コロナ禍の中でも県内を5グループに分けて地区別の幹事が月に1回集まり、計画を話しあっています。

今年は食育をテーマにしたおはなし会を計画、絵本を通してミニ野菜を種から育てよう……楽しい会にしようと、幹事一同、がんばっています。

県大会も県立図書館のみなさまと力をあわせて無事、表彰式のみ開催することができました。

個人 小林静子さん(栃木子ども本連絡会) 栃木県

*コロナの感染状況も一段落し、図書館などの活動も始められ、親子連れや、小学生のお子さんたちとの再会を喜んでいきます。

第24回 1994年

個人 清水達也さん(遊本館) 継承者 清水喜久栄さん 静岡県

*清水達也再話で『静岡県告げなし』(静岡新聞社)に収録の『ね

こ塚ねずみ塚』の英訳本『A cat mound(Nekozuka), A mouse mound(Nezumizuka)』がで

ました。訳は達也の教え子である小栗和子さん、イラストは地元の中学生・高校生が担当です。

第25回 1995年
奨励賞 板野町読書会(橋本雅公さん) 徳島県

*この一年間はコロナ禍の影響を強く受けました。個人としては読書時間を多く持てましたが、読書会の会場が使用禁止になったり、会場へ外出することをためらう方が出たりと、普段の読書会とは異なったものとなりました。それでも少しずつ読書会を開いていま

す。

第31回 2001年

団体 大分子子どもの本研究会(甲斐栄さん) 大分県

*野間読書推進賞受賞のみなさまへ、心からお喜び申しあげます。

みなさまの四半世紀以前からの永きにわたる活動によって、どれだけ多くの子どもたちの心に、本ののしさが刻まれたことでしょう。

本年の贈呈式にあわせていただいた、これまでの野間読書推進賞受賞者からの近況報告をご紹介します(文章を一部 割愛しています)。

う。デジタル化のネット社会が進むいまこそ、子どもの時期には本に親しむ環境づくりが欠かせません。そのために子どもが必要としている本を見極める眼を私たち大人は養い、子どもに本の出会いをつくるのが大事だと思っています。全国で同じ歩みをしていらっしゃるみなさまに敬意を表し、これからの普及活動に期待いたします。



吉井久子さん手作りの「うちどく神だより」
本の情報、参加者の反応が満載です

第36回 2006年

個人 前田敏子さん(八戸市読書団体連合会) 青森県

*コロナ禍で今年の計画はほとんどできずにあります。総会を開催しましたが、ブックスタートでの読み聞かせは昨年度より中止。いろいろな行事が中止になるなか、直木賞候補になった郷土の作家・呉勝浩氏の作品をテーマ本に「読書会」を開催。11月には県の委託事業「親子ふれあい読書アドバイザー養成講座」の開催予定です。

第38回 2008年

団体 十勝子どもの本連絡会(沼田陽子さん) 北海道

*続くコロナ禍により、参集しての活動はむずかしいのですが、各自がそれぞれの場所ですみず練に励んでいます。

マスク越しの読み聞かせ、子どもたちの心に少しでも寄りそい届けよう、工夫と知恵を絞って作品選びに悩みながらも、前向きに取り組んでいます。

第40回 2010年

団体 青森市読書団体連絡会(西村恵美子さん) 青森県

*事業活動が中止になった一方で、意欲は増しています。そこで、毎月の学習会で行っていた学

びを、おのおのが書き送りました。この試みは「書く、語る」記憶を新鮮に蘇らせた作業でした。

第41回 2011年

団体 みきおはなし会*絵本の森(西尾美智子さん) 兵庫県

*三木市立図書館(青山図書館)と共催で、コロナの状況の中「長谷川義史絵本ライブ」を、みなさんの協力で無事開催できました。万全の対策に地域の方々の協力もあり、愉しく熱いあつという間のひとときでした。

第42回 2012年

団体 関音訳の会 しおん(波多野いと子さん) 岐阜県

*規制が幾分緩和されたとはいえ、相変わらず視覚障がいの方は介添人もお願いできず、外出もままならない。カラオケを楽しむに出かけられていた施設では、カラオケ禁止が続き、閉じこもり状態になっておられます。なので、私たちの音訳本が楽しみだと、リクエスト本がまたまた増えてまいりました。レパトリーが多岐におよび、ミステリー・推理もの、偉人・時代もの、有名作家全集、宗教本、古代遺跡本、マンガ本など、会員を手分けして、録音、校正、CD作製、発送と、早く喜んでいただける姿をとがんばり、お礼や感想



ロゴがステキな木ノ子親読書会の参加案内。SNSだけに頼らず、従来同様、手作りのチラシで、子どもたち、大人たちに呼びかけています

の電話にこちらも喜ばせていただいています。また、国会図書館にも数冊、あげていただきました。奨励賞 清水泰子さん(大平町小学の会)ごんぐり・麦の会 板木県

*コロナ禍で制限はあるものの、点字本、弱視者用大活字本の製作はほぼ順調に進んでいます。

盲学校以外の普通学級でも、弱視の児童・生徒はおり、とても困難な読書環境にあります。大活字本の周知と、なおいつその図書の充実が必要と思います。読みきれないほどのたくさんの本を、届けたのです。

第43回 2013年

団体 図書館ボランティアサークル かやのみ会(東谷恵子さん) 山形県

*各小学校の校外学習として図書

館訪問の際に読み聞かせを担当したり、小学校の出前おはなし会や高齢者施設などへの毎月の訪問など年間100回近くの活動も、去年度・今年度はコロナウイルスのためままならない状況ですが、手づくり作品の制作や補修など、いまでないといけないことをメンバー10人でやっております。

団体 しらはま子どもの本の会(坂本美枝子さん) 和歌山県

*会は、去年度、発足以来初めて、新型コロナウイルス感染症防止のため、4月と5月、今年度も9月は休会を余儀なくされました。でも、会員は、会に集まると楽しくテキストについていろんな意見を交わします。ときには脱線をしりますが、これからもぼちぼちと子どもの本に関わっていき

と思っています。

第44回 2014年

個人 寺澤敏子さん 群馬県

*コロナで1年近く延期されていた児童センターでの「絵本と子育て」講座を10月13日に開催することができました。午後5か月の赤ちゃんから2歳ぐらまでのお子さんとお母さん5組の参加でした。手遊びやわらべ唄、絵本の読み聞かせをしながら家庭での読み聞かせの大切さをお話ししました。赤ちゃんの笑顔に、お母さん方もリラックスしている様子。そして私自身も、久しぶりに声に出して読む喜びを味わえた、楽しいひとときでした。

第45回 2015年

団体 特定非営利活動法人 岩手県点訳の会(橋澤忠さん) 岩手県

*一昨年の『会創立60周年記念誌』の発行に続き、昨年は『会報第6百号記念文集』を発行し、2年連続して過去を振り返る記録を残すことができました。昨年春からのコロナ禍の影響で、県独自の緊急事態宣言が発出されたりして、毎月の例会などを中止にした時期もありました。現在では、三密に配慮しながら、少しでも多くの会員が参加できるように椅子席だけではなく、点字・点訳のあれこれをと

に学び、自宅での点訳活動などに反映できるよう取り組んでおります。以前のように、机を囲んで顔を突きあわせた例会や新年会(今年度も中止)を開催できる状況に帰ることを願っております。

個人 野々子律子さん(吹田子どもの本連絡会) 大阪府

*新型コロナウイルス感染症がまだ収まらないなか、さまざまな講演会、研究大会などが「Zoom」での参加となっている日々です。人間の本来の「五感」を通しての交流はうすれていると思います。人間の暮らしに大事な「文化」は、やっぱり対面でのコミュニケーションです。本来の豊かで温もりを感じる日々をとり戻したいです。

第46回 2016年

団体 グループわらべ(佐々木文子さん) 岩手県

*民話のふるさと・遠野に、子どもたちの図書館「こども本の森遠野」が設立されました。建築家・安藤忠雄さんが、「遠野物語」を通して「本の森 遠野から豊かな感性を持った子どもたちが世界に羽ばたいてくれることを期待しています」と、設計し、寄付してくれました。素晴らしい図書館で、明治期の町家の形式をいまに伝える木造で、本が森のように広がる

施設です。同館のミニシアターより出演依頼があり、10月3日、久しぶりに紙芝居、昔あそびなど活動の場を設けてもらいました。対象者は図書館の見学者で、親子連れの市外の方が多く、大型紙芝居またはお手玉あそびに喜んで参加してくれました。

10月例会は人形劇の着物づくり。11月、12月は語り部の練習です。

個人 平田恵美子さん(沖縄県子どもの本研究会) 沖縄県

*沖縄県子どもの本研究会の「第45期子ども本の学校」がオンライン講座で開催中です(9月・12月)。タブレットでの参加に初挑戦で悪戦苦闘。小学生の孫たちに教えてもらい、地元のしろませいゆう先生の講座を無事受講することができました。82歳の手習いです。

奨励賞 宅配ボランティア(御子柴啓子さん) 長野県

*県内の発症者数が抑えられはじめ、感染警戒レベル平常時となり、各公共施設の利用も可能になりました。介護施設への訪問はまだできません。本の宅配はますます必要度が高くなり、なんとか持続しております。活動の準備を始めるため、久々にメンバーが集まりました。どんな活動ができるか、模索中です。

第47回 2017年

個人 川端英子さん(のぞみ文庫)
宮城県

*コロナ禍の中でも、小さなぞみ文庫は月1回開き続けております。工夫してできることを世話人3人、協力して楽しくやっております。特に今年は、宮城県母親大会の企画として、「絵本と紙芝居で学ぶ戦争と平和」を10月30日にZoom配信もして実施いたしました。のぞみ文庫と「みやぎ親子読書をすすめる会」「紙芝居文化の会みやぎ」のメンバーで行います。10月10日には宮城の新規感染者がひとりになりましたので、いろいろ行事ができるようになりました。

第48回 2018年

団体 ねりま地域文庫読書サークル連絡会(木村典子さん) 東京都
*ねりま地域文庫読書サークル連絡会は、活動52年目を迎えました。

昨年秋、前代表 関日奈子が逝去し、この秋、追悼集『種をまいた人 関日奈子に捧ぐ』を発行しました。ねりま文庫連絡会は前代表の思いを大切にしつつ、子どもたちに本を手渡す活動、公共図書館ならびに学校図書館の充実を目指す活動を続けてまいります。

第49回 2019年

団体 諫早コスモス音声訳の会(中路美知子さん) 長崎県

*今年は、月例の活動はできていますが、リスナーさんとの交流会は休止、リスナーさんの声も収録した「交流会CD」を制作中です。一年延期した「音声訳者養成講座(7回)」は、9人の受講者を迎えて開講。みなさん、熱心に取り組まれています。図書館蔵書は28冊、プライベート図書は4冊完成(9月末)。勉強会では「読みの基礎・基本を見直そう」と取り組んでいます。

個人 村上招子さん(家庭文庫ぼてと) 広島県

*10月から少しずつ動き始めました。家庭文庫ぼてとにも、子どもの笑い声が久々に聞かれました。「ほつとできるおはなし会」として、30組の0歳〜未就園児と保護



控え室での木刈親子読書会のみなさんと鳥羽啓子さん



鳥羽啓子さんの「ひだまり文庫」はホスピスで25年以上活動ののち、建物改修のため今年5月に子ども園内の絵本館に移転して、8月より再開されています

きます。「新人さんも参加するらしい!」との噂に、ネットワークの樹が大きくなっているように思えて、うれしくなります。

第50回 2020年

団体 世田谷親子読書会(鈴木万由子さん) 東京都

*昨年度からのコロナ禍の中で、活動が困難な状況が続いています。オンラインでの例会を行ったりもしていましたが、最近、徐々に公園などに集まって、読み聞かせや遊ぶ活動ができるようになってきました。本を通して再び仲間と一緒になかでできる楽しさを、子どもたちと考えていきたいです。

団体 おはなしの木(土田さゆきさん) 宮城県

*今年で35周年を迎えました。コロナで活動が制限されるなか、例会(語りの勉強会)は、これまでより毎回、参加人数も増え、語られるおはなしの数も多く、今年は新入会員も7名と増え、活気のある会となっています。11月からは学校でのおはなし会も再開されました。こんな時代だからこそ、人の温かみのある生のことばの大切さを感じています。昔話の再話にも取り組み、いただいた副賞で記念の企画を来年こそはと検討中で、楽しみにしているところです。

「第54回 優良読書グループ表彰」追加のお知らせ

『読書推進運動』648号(2021年11月15日発行号)に掲載いたしました「第54回 優良読書グループ一覽」に、2021年11月9日付で広島県より推薦いただきましたグループを追加いたします。

表彰グループ名

絵本の会「ゆきんこ」

グループ所在地

広島県神石郡神石高原町

代表者名

前原 寿子

(敬称略)



野間読書推進賞 受賞者一覧

(敬称略、団体名は受賞時のもの)

第1回 1971年

長野市PTA母親文庫(長野県)
井出 きぬゑ(山梨県)

佐藤 峻(宮城県)

白岩 よし(岡山県)

第2回 1972年

広島県地域婦人団体連絡協議会

(広島県)

金森 好子(福島県)

塩見 俊二・和子(東京都)

永田 英顕(東京都)

第3回 1973年

岐阜県読書サークル協議会

(岐阜県)

井田 秀子(島根県)

大泉 俊(岩手県)

水島 弥右衛門(福井県)

第4回 1974年

本庄市読書会(埼玉県)

犬井 春子(滋賀県)

浪江 虔(東京都)

細川 明(香川県)

第5回 1975年

地域文庫 親皇子ぼし(大阪府)

木内 敏夫(北海道)

中島 美代子(群馬県)

宮田 静子(岐阜県)

第7回 1976年

そばの実会(山口県)

宮崎 慶一郎(茨城県)

千田 善八(岩手県)

藤本 庄治(大阪府)

第8回 1977年

近江八幡読書グループ

連絡協議会(滋賀県)

加須市民読書会(埼玉県)

石田 博子(千葉県)

第8回 1978年

石川県読書会連絡協議会

(石川県)

岩谷 貞三(秋田県)

北谷 幸冊(奈良県)

瀬林 杏子(高知県)

第9回 1979年

華浦地区婦人会読書会(山口県)

殿村読書会(京都府)

佐々木 悦(山形県)

竹中 千秋(富山県)

第10回 1980年

河鹿の会(栃木県)

大川 淳(茨城県)

小原 与三郎(岩手県)

彌永 専一(福岡県)

第11回 1981年

市川市読書会連絡協議会

(千葉県)

牛島 国枝(佐賀県)

芝尾 悦子(島根県)

第12回 1982年

中田町読書団体連絡協議会

(宮城県)

山本 弘子(石川県)

山田 光之助(岐阜県)

第13回 1983年

福井県読書会連絡協議会

(福井県)

我妻 玲子(栃木県)

徳田 渙(沖縄県)

大岡 下枝(福岡県)

第14回 1984年

防府市読書グループ連絡協議会

(山口県)

橋本 ヒサ(岩手県)

成田 久江(千葉県)

第15回 1985年

愛媛県読書グループ連絡協議会

(愛媛県)

福島子どもの本をひろめる会

(福島県)

穂岐山 禮(高知県)

第16回 1986年

福岡県母と子の読書会協議会

(福岡県)

大阪府読書団体友の会(大阪府)

常田 黎子(鳥取県)

豊増 幸子(佐賀県)

第17回 1987年

仙台手をつなぐ文庫の会

(宮城県)

石岡市読書会連合会(茨城県)

柴田 貞夫(北海道)

佐野 茂雄(静岡県)

第18回 1988年

長老読書会(青森県)

静岡子どもの本を読む会

(静岡県)

国田 太郎(石川県)

陶山 高度(福岡県)

第19回 1989年

若松子どもの本を読む会

(北海道)

富山県読書会連絡協議会

(富山県)

長崎県読書グループ連絡協議会

(長崎県)

第20回 1990年

鷹巣町読書会(秋田県)

岡谷市PTA母親文庫(長野県)

江坂 利志子(大分県)

〔奨励賞〕

郡山子どもの本をひろめる会

(福島県)

敦賀市立図書館友の会(福井県)

第21回 1991年

盛岡児童文学研究会(岩手県)

佐賀県母と子の読書会協議会

(佐賀県)

藤井 いづみ(茨城県)

小林 静子(栃木県)

第22回 1992年

とよ読書会(大阪府)

松本 トモエ(岩手県)

佐藤 賢一(福島県)

丹下 操(岐阜県)



第1回の贈呈式。左上より時計回りに、長野市PTA母親文庫、井出きぬゑさん、白岩よしさん、佐藤峻さん

第23回 1993年

子ぐま絵本の会 (広島県)

原 豊一郎 (新潟県)

角 秋義 (島根県)

喜納 勝代 (沖縄県)

第24回 1994年

平賀町読書運動推進協議会

(青森県)

小林 茂利 (群馬県)

清水 達也 (静岡県)

田中 美光 (大分県)

第25回 1995年

名寄市の図書会 (北海道)

波崎町読書グループ連合会

(茨城県)

中村 實枝子 (青森県)

清水 欣子 (岩手県)

(奨励賞)

田辺町子ども文庫連絡会

(京都府)

第26回 1996年

板野町読書会 (徳島県)

桐生読書会連絡協議会 (群馬県)

増田 恵美子 (三重県)

権藤 千秋 (佐賀県)

(奨励賞)

栃の実会 (栃木県)

千代田子ども文庫 (広島県)

ひょうたん読書会 (大分県)

(特別賞) 読書週間50周年記念
株式会社 毎日新聞社

財団法人 伊藤忠記念財団

第27回 1997年

滋賀県読書グループ連絡協議会

(滋賀県)

大阪府子ども文庫連絡会

(大阪府)

梶井 重雄 (石川県)

坂本 京子 (徳島県)

(奨励賞)

龍ヶ崎市読書会連合会 (茨城県)

大西町読書会 (愛媛県)

第28回 1998年

社団法人 八戸市読書団体
連合会 (青森県)

飯伊婦人文庫 (長野県)

松友 孟 (愛媛県)

林 公 (千葉県)

(奨励賞)

長崎市子ども文庫連絡協議会

(長崎県)

第29回 1999年

視力障害者と本の会 (北海道)

石川子ども文庫連絡会 (石川県)

高橋 禎三 (秋田県)

(奨励賞)

うれし野文庫 (岩手県)

土居町読書連絡協議会 (愛媛県)

第30回 2000年

栃木子ども本連絡会 (栃木県)

佐賀県読書グループ連絡協議会

(佐賀県)

岡本 加代子 (岩手県)

藤本 和子 (東京都)

(奨励賞)

読書会二休さん (北海道)

静岡おはなしの会 (静岡県)

(特別賞) 「子ども読書年」記念
財団法人 東京子ども図書館

大塚 笑子 (千葉県)

第31回 2001年

岩手県立伊保内高等学校

(岩手県)

大分子どもの本研究会 (大分県)

須田 利一郎 (群馬県)

大久保 糸子 (岐阜県)

第32回 2002年

よこはま文庫の会 (神奈川県)

沖縄県子ども本研究会

(沖縄県)

吉田 まさ子 (福島県)

勝尾 外美子 (石川県)

(奨励賞)

広島県よい本をすすめる母の会

(広島県)

第33回 2003年

白たか子どもの本研究会

(山形県)

林 東一 (群馬県)

藤倉 かね子 (徳島県)

(奨励賞)

児童文学と科学読物の会

(大分県)

第34回 2004年

ひこね児童図書研究グループ

(滋賀県)

堺市子ども文庫連絡会 (大阪府)

おはなしひろば・ひまわり

(徳島県)

(奨励賞)

哲西町立天神小学校愛育会

(岡山県)

第35回 2005年

常石読書会 (愛媛県)

大久なかつバス図書館

(秋田県)

鹿児島島童話会 (鹿児島県)

宮崎 なみ子 (山形県)

吉永 千草 (熊本県)

(奨励賞)

お話の会『大きな樹』 (岐阜県)

第36回 2006年

こぼし文庫 (沖縄県)

前田 敏子 (青森県)

高橋 美知子 (岩手県)

山本 悟 (静岡県)

(奨励賞)

えにわゆりかご会 (北海道)

特定非営利活動法人
高知こどもの図書館 (高知県)

第37回 2007年

「本の学校」生涯読書を
すすめる会 (鳥取県)

おはなしのポケット (徳島県)

萩原 栄子 (群馬県)

紫藤 律子 (石川県)

(奨励賞)

岩本 紘一 (大分県)

第38回 2008年

十勝子ども本連絡会 (北海道)

図書館朗読ボランティア
千の風 (山梨県)

みすみ絵本サークル (熊本県)

道 勝美 (石川県)

第39回 2009年

美原読書友の会 (大阪府)

ささゆり読書会 (愛媛県)

岡 光 (秋田県)

庄司 一幸 (福島県)

(奨励賞)

男声読み聞かせ隊
with Ms (北海道)(特別賞) 読書推進運動協議会
創立50周年記念

親子読書地域文庫全国連絡会

永井 伸和 (鳥取県)

J P I C

読書アドバイザークラブ

第40回 2010年

青森市読書団体連絡会 (青森県)

友部読書会連合会 (茨城県)

上石 嘉代子 (長野県)

境 ツヤ子 (佐賀県)

第41回 2011年

みきおはなしの会*絵本の森

(兵庫県)

石垣市立伊野田小学校
PTAたんぽぽの会 (沖縄県)

小川 範子 (栃木県)

松井 郁子 (大阪府)

奨励賞

財団法人 鹿児島県青年会館

艸舎 (鹿児島県)

第42回 2012年

てんとうむし文庫 (静岡県)

関音訳の会 しおん (岐阜県)

ひろしまストーリー

テリングの会 (広島県)

人形劇団 んまだいしろう

(沖縄県)

奨励賞

清水 泰子 (栃木県)

第43回 2013年

語りの会 はまなす (青森県)

絵本読み聞かせの会

おむすびころりん (宮城県)

図書館ボランティアサークル

かやのみ会 (山形県)

しらはま子どもの本の会

(和歌山県)

奨励賞

朗読研究会「つばき」 (広島県)

第44回 2014年

特定非営利活動法人

函館視覚障害者図書館 (北海道)

特定非営利活動法人

岩手県読書の会 (岩手県)

おはなしブリュッケン (島根県)

成田 和子 (宮城県)

寺澤 敬子 (群馬県)

奨励賞

陽早郵便局 (長野県)

鈴木 富夫 (千葉県)

第45回 2015年

特定非営利活動法人

岩手県読書の会 (岩手県)

藤井寺ボランティアサークル

おはなしころりん (大阪府)

西村 恵美子 (青森県)

野々上 律子 (大阪府)

奨励賞

こころにミルック編集部 (広島県)

第46回 2016年

グループわらべ (岩手県)

村山朗読会 (山形県)

岸本 方子 (大分県)

平田 恵美子 (沖縄県)

奨励賞

宅配ボランティア (長野県)

宅配ボランティア (長野県)

特別賞 読書週間70回記念

日本子どもの本研究会

第47回 2017年

函館朗読奉仕会 (北海道)

とりで子どもの本の会 (茨城県)

彦根おはなしを語る会 (滋賀県)

川端 英子 (宮城県)

浅川 玲子 (山梨県)

奨励賞

土庄町立中央図書館友の会

(香川県)

第48回 2018年

ねりま地域文庫読書サークル

連絡会 (東京都)

朗読グループ かぎくるま

(静岡県)

たけのこ文庫 (福岡県)

牟田 昭一郎 (佐賀県)

特別賞 こどもの読書週間

60回記念

奈良県点訳グループ 青垣会

(奈良県)

奈良県音訳グループ 草堂会

(奈良県)

第49回 2019年

鹿嶋市読書団体連合会 (茨城県)

諫早コスモス音声訳の会

村上 招子 (広島県)

今井 登美子 (大分県)

第50回 2020年

世田谷親子読書会 (東京都)

おはなしの木 (宮崎県)

特別賞 第50回記念

三島読書グループ連絡協議会

(愛媛県)

第51回 2021年

木刈親子読書会 (千葉県)

石垣市文庫連絡協議会 (沖縄県)

吉井 久子 (佐賀県)

島羽 啓子 (鹿児島県)

奨励賞

草津点字グループあゆみ会

(滋賀県)

事務局報告 (11月)

☆10月27日・11月9日 第75回 読書週

間

・1・30日「図書館総合展」ONLINE plus 参加

☆1日「若い人に贈る読書のすすめ」

☆1日「若い人に贈る読書のすすめ」

☆2日「野間読書推進賞要項」出来

☆4日「文部科学省へ、令和3年度「子

供の読書活動の推進に関する調査

研究」事業審査表を提出

☆5日「第51回 野間読書推進賞 贈呈

式」を、新型コロナウイルス感染症

対策のため参加者を限定して開催

☆6日「日本子どもの本研究会全国

☆8日「機関紙「読書推進運動」648号

☆9日「機関紙「読書推進運動」648号

☆10日「2021年度全体事業委員会

および「第64回 こどもの読書週間

読書週間 読書推進事業委員会」第76回 読書

週間 読書推進事業委員会」の開催

・11日・12日「第76回 全国図書館大会

山梨大会 参加 (オンライン)

☆15日「機関紙「読書推進運動」648号

☆15日「若い人に贈る読書のすすめ」

☆15日「若い人に贈る読書のすすめ」

☆15日「2022年 こどもの読書週間

「読書週間」読書推進事業委員会」

・15日「上野の森 親子ブックフェスタ

運営委員会」出席

☆16日「若い人に贈る読書のすすめ」

☆16日「若い人に贈る読書のすすめ」

☆16日「伊藤忠記念財団 子ども文庫助

成事業選考委員会」出席

☆24日「子ども読書の日」ポスター版

☆26日「子ども読書の日」ポスター版

編集部・事務局の
ひとこと

●昨年に続き、規模を縮小してでは

ありますが、野間読書推進賞 贈呈

式を無事、挙行することができまし

た。快く出席いただきまして受賞

者・関係者のみなさまに感謝申しあ

げます。また、推薦者には、業務上

の規定で東京への出張がかなわず、

「自分たちの分まで祝福してほしい」

とのメッセージをよせて欠席された

方もいたつじやいました。

●いただいた受賞者のことばに共

通するのは、仲間と、家族と、子ど

もたちと、支援を必要とする人たち

と、「ともに」本を読んできた喜びと

その豊かな世界。「本を読む」とい

うきわめて個人的な行為が、「本を

読みあう」「本を紹介する」「本を

読む」と多くの人たちとのつながりを

生みだしています。控室で受賞者

のみなさんがおつじやつた「久しぶ

りにいろいろな人と直接会えて、こ

とばを交わして楽しかった」とのこ

とばからも、読書推進のエネルギー

は人と人とのつながりだと実感。

●本紙113ページに掲載した歴代

の受賞者の近況報告からは、コロナ

禍でなかなかつながりが持てなくて

も、できることをできるだけで工夫

されていく姿が伝わります。ねりま

地域文庫読書サークル連絡会の報告

にある、前代表・関日奈子さんの追

悼文集に紹介されている、関さん最

晩年のことば「私、死んだらどこに